

もち病（ツツジ類）

葉の一部が、半球状～球状に膨大する。このふくらみは肉厚、中空で、はじめは淡黄緑色だが、病原菌の菌体が表面に現れるようになると粉っぽい白色になる。ふくらみはやがてピンク色～淡紅色になり、のちに、萎縮、黒変する。病名のとおり、葉に「もち」のような異物がついたように見え、人目をひく。



【病原菌】 *Exobasidium japonicum*

【罹病樹種】 エゾムラサキツツジ、ヤマツツジ、サツキ

【道内発生地域】 上川，空知

【防除】

患部に形成される胞子が翌年の感染源になるので、ふくらみが粉白色になる前に罹病葉を摘み取って焼却するか、土中に埋める。